

アイ・ウェイウェイ展 ― 何に因って？

2009年7月25日〔土〕 - 11月8日〔日〕 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53 階）

現代中国で最も刺激的なクリエイターの挑戦

森美術館は、2009年7月25日（土）から11月8日（日）まで、「アイ・ウェイウェイ展―何に因って？」を開催します。アイ・ウェイウェイ〔艾未未〕は、美術、建築、デザイン、出版など多岐にわたりクリエイティブな活躍を続けている中国のアーティストです。とくに、2007年の「ドクメンタ 12」における1001人の中国人が参加した《童話》プロジェクト、2008年北京オリンピック・スタジアム「鳥の巣」の設計におけるヘルツォーク&ド・ムロンとのコラボレーションなどによって、その国際的な評価は確かなものとなりました。アイの作品は、これまでもアートや文化と社会の関係、あるいは社会全体における個人の存在などに向けられた深い洞察を掘り所としてきましたが、近年では、1999年以降関わってきた建築プロジェクトからも距離を置き、多様な表現ジャンルの枠組みに限定されない曖昧な領域のなかで、文化、歴史、政治、伝統といった人間の本質的な課題をさらに探究する方向に向かっているように見えます。

本展は、1990年代以降の主要作品を中心に、新作6点を含む26作品を展示する過去最大級の個展となります。サブタイトルの「何に因って？」は、アイ・ウェイウェイにとって現代美術への入口となったジャスパー・ジョーンズの同名の作品に由来しますが、アイの制作の背景に編み込まれた美術的、文化的あるいは歴史的な文脈の相互関連性が、展覧会を通して紐解かれることを示唆しています。会場では、立体、写真、ビデオ、サイト・スペシフィックなインスタレーションなどアイ・ウェイウェイの多様な創造活動を紹介し、「基礎的な形体とボリューム」、「構造とクラフトマンシップ」、「伝統の革新と継承」といった観点から、表現メディアを越えた「クリエイター」としてのアイ・ウェイウェイの意図や態度の本質を浮き彫りにします。

最初のセクション「基礎的な形体とボリューム」では、ミニマルアートを想わせる一連の立方体、正二十面体などの立体作品と中国茶のブロックによる新作インスタレーション、都市としての北京の定点観測をした映像作品を展示します。また「構造とクラフトマンシップ」では、シンプルな形体に驚くべき工芸技術が隠された《地図》シリーズ、1997年以降続けられている《家具》シリーズ、そして美術・建築・デザインの領域を横断する立体作品《月の筆筒》を展示。最後のセクション「伝統の革新と継承」では、新石器時代、漢や唐時代の壺をモチーフにしたシリーズ、明時代の建築物のパーツを再構成したインスタレーションなどを展示します。さらに、ソーシャル・スカルプチャーとも呼べる「ドクメンタ 12」での《童話》プロジェクトドキュメント映像（2時間30分）、新作の《シャンデリア》、《蛇の天井》などが加わります。

急速な経済発展、社会的変革の渦中にある中国に身を置きながら、独自の視点で現代を過去と繋ぎ、個人を世界と繋ぐアイ・ウェイウェイ。現代中国で最も刺激的なクリエイターが世界を見つめる眼差しを、展覧会を通して覗いてみませんか。

※ 本展は、「MAMプロジェクト 009：小泉明郎」展（場所：森美術館ギャラリー 1）と同時開催となります。

主催：森美術館

助成：財団法人大林都市研究振興財団

協力：ニコラ・フィアット、ボンベイ・サファイア

会場：森美術館 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 53 階

開館時間：10:00 - 22:00 | 火 10:00 - 17:00 | 9/22（火）、11/3（火）は 22:00 まで *いずれも入館は閉館時間の 30 分前まで 会期中無休

入館料：一般 1,500 円、学生（高校・大学生）1,000 円、子供（4 歳 - 中学生）500 円

*表示料金に消費税込 *本展のチケットで「MAM プロジェクト 009：小泉明郎」展、展望台 東京シティビューにも入館可（スカイデッキを除く）

*スカイデッキへは別途料金 300 円がかかります（子供は無料）。

お問い合わせ：TEL: 03-5777-8600（ハローダイヤル） WWW.MORI.ART.MUSEUM

お問い合わせ 森美術館 広報担当：渡邊、田村 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー



《中国の地図》2004年
清時代の寺院に使用されていた鉄木(1644-1911)
高さ 51 cm、直径 200 cm
©FAKE Studio

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

〈アイ・ウェイウェイ【艾未未】プロフィール〉



〈漢時代の壺を落す〉1995年
モノクロ写真（三部作）180×199cm
©FAKE Studio

1957年、現代中国を代表する詩人アイ・チン【艾青】を父に北京で生まれ、1978年に北京電影学院（フィルムアカデミー）に入学。1979年および81年には文化大革命後の中国における初の前衛芸術集団「星星画会」の展覧会に参加。その後まもなくニューヨークに渡り、1993年に帰国するまで12年間を米国で過ごす。その時期にアイ・ウェイウェイがアメリカの現代美術やデュシャンなどヨーロッパのモダニズムから受けた影響は、当時の作品に明らかである。帰国後は、出版活動の傍ら、チャイナ・アート・アーカイヴ&ウェアハウス（CAAW）の創設にアーティストティック・ディレクターとして参画、以降中国の若手アーティストの支援を続ける。2000年には第三回上海ビエンナーレと同時期に「不合作方式（FUCK OFF）」展をキュレーション。作品の極端な過激さが物議を醸す伝説的な展覧会となった。一方、1999年の自宅兼スタジオの設計を契機に建築分野での活動を広げ、以降6～7年の間に50を超える建築系プロジェクトに携わる。自宅兼スタジオのある草場地（ツァオチャンディ）には、現代アートのためのギャラリーおよびスタジオ用ユニットを設計。大山子（ダーシャンス）にある「798芸術地区」に続く第二のアーティストゾーンとして注目されている。

2000年以降は、シドニーのシャーマン現代美術財団およびキャンベルタウン・アーツ・センターの個展（2008）で網羅的に過去の作品が紹介されたほか、メアリー・ブーン・ギャラリー、フローニンゲン美術館、ベルン・クンストハーレでも個展が開催されている。また、「第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展」、ヴェネチア（2008）、「第8回リバプール・ビエンナーレ・インターナショナル」、リバプール（2008）、「ドクメンタ12」、カッセル（2007）、「第5回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」、クイーンズランド、オーストラリア（2006）、「接触地帯」、第15回シドニー・ビエンナーレなどの国際展のほか、「麻雀：シグコレクションの現代中国美術」（2006年、ベルリン、ザルツブルグ、サンフランシスコなどを巡回）など世界各地で中国の現代美術を紹介するグループ展に参加している。

〈出品予定作品〉＊一部



〈1トンのお茶〉2006年
圧縮した茶 1トン
100×100×100cm
©FAKE Studio



〈1メートル立方のテーブル〉2006年
花梨 100×100×100cmのテーブル13台
©FAKE Studio



〈コカ・コーラの壺〉1997年
唐時代の壺（206BC-24AD）、塗料
24cm、Ø18cm
©FAKE Studio



〈フォーエバー自転車〉2003年
自転車 42台
高さ275cm、直径450cm
©FAKE Studio



〈一杯の真珠〉2006年
磁器、淡水真珠
高さ各43cm、Ø100cm
©FAKE Studio



〈三本足のテーブル〉2006年
明代後期もしくは清代初期のテーブル（1368-1911）
116×155.5×155.5cm
©FAKE Studio

掲載の画像を含む最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトにて申請いただけます。

お問い合わせ 森美術館 広報担当：渡邊、田村 Tel:03-6406-6111 Fax:03-6406-9351
E-mail: pr@mori.art.museum Website: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

 パブリックプログラム

セッション

「8 時間日曜対談—アイ・ウェイウェイ×アート×建築」

※ 日英同時通訳付

美術、建築、編集、デザインなど多岐にわたるクリエイティブな分野で活躍するアイ・ウェイウェイ。日曜日の午後 8 時間を使ったこの連続対談では、アーティストの多面性をアートと建築を入口にして、素材、技術、空間、歴史、文化、領域などの観点から読み解きます。対談相手にも、アートと建築の世界からアイ・ウェイウェイと興味深い繋がりやクリエイティブな共通点をお持ちの豪華ゲストをお招きしています。会場のみなさまからの「アイ・ウェイウェイへの質問」も時間の許す限りたくさんお受けします。アイ・ウェイウェイと多彩なゲストの対談からどんな新しいアイデアが生まれるのか。どうぞご期待ください。

出演：アイ・ウェイウェイ、ウリ・シグ（コレクター）、隈 研吾（建築家）、杉本博司（アーティスト）、その他

モデレーター：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

日時：2009 年 7 月 26 日（日）12：00 - 20：00（途中出入り自由）

会場：アカデミーヒルズ 49、タワーホール（森タワー 49 階）

主催：森美術館、アカデミーヒルズ

定員：300 名（当日先着順）

料金：一般・学生 1,500 円 MAMC メンバー 1,000 円

受付：当日 11：30 よりアカデミーヒルズ 49「8 時間日曜対談」専用カウンターにて先着順に受付開始。参加料金は当日受付にて現金でお支払いください。

開場：11：30、全自由席

※ プログラムの詳細につきましては森美術館ウェブサイト WWW.MORI.ART.MUSEUM をご覧ください。

※ 手話による通訳をご希望の方はプログラム開催 1 週間前までにその旨ご連絡ください。

※ MAMC メンバーの方は受付の際にメンバーカードをご提示ください。

レクチャー

「アイ・ウェイウェイ・チューズディ」

※ 日本語のみ

第 1 夜 アイ・ウェイウェイの問い

アイ・ウェイウェイの活動を根底で繋ぐのは、人間の生に関わる根源的な問いです。そこから生まれる表現と欧米の現代美術や中国の歴史・文化などの関係性を読み解きます。

出演：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

日時：2009 年 8 月 18 日（火）19：00 - 20：30

会場：森美術館展示室内

定員：100 名（要予約）

料金：500 円（要観覧チケット）

申し込み：森美術館ウェブサイト WWW.MORI.ART.MUSEUM

申し込み開始日：2009 年 7 月 1 日（水）10：00

第 2 夜 アイ・ウェイウェイの建築は「何に因って」つくられているか

2001 年より中国に滞在し、自らも中国で建築家として活動してきた松原弘典氏が、国際的な建築の動向を含めて、アイ・ウェイウェイのプロジェクトを読み解きます。

出演：松原弘典（建築家、慶応義塾大学 SFC 准教授）

日時：2009 年 10 月 6 日（火）19：00 - 20：30

会場：森美術館展示室内

定員：100 名（要予約）

料金：500 円（要観覧チケット）

申し込み：森美術館ウェブサイト WWW.MORI.ART.MUSEUM

申し込み開始日：2009 年 7 月 1 日（水）10：00

そのほか、キュレーターによるギャラリートーク、ファミリープログラム、アクセスプログラム、学校プログラムも予定しています。詳しくはお問い合わせください。

パブリックプログラムに関するお問い合わせ

森美術館 学芸部 パブリックプログラム Tel: 03-6406-6101 Fax: 03-6406-9351 E-mail: ppevent@mori.art.museum

お問い合わせ 森美術館 広報担当：渡邊、田村 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER